

BIAS 電流設定法

自動バイアス基板の REF 端子に印加した電圧とほぼ同じ電圧が出力管のカソードと GND 間に設けた検出抵抗の両端電圧になるので、検出抵抗が 10Ω の場合は下記の式に示す BIAS 電流となります。

$$\text{BIAS 電流 (mA)} = \text{BIAS 抵抗両端電圧(mV)} / 10$$

すべての出力管のカソード電圧が、ほぼ等しい電圧になっていることを確認してください。

使用部品について

1. 使用する PNP Tr と NPN Tr は、通常の汎用 Tr で問題ありません。ただし、一般的な 2SC945 などは耐圧が 50V なので、使用する真空管のバイアス電圧が大きい場合は耐圧不足になりますので、選定には十分注意してください。
2. 本基板は、Tr のピン配置を国産 Tr に多い ECB と海外 Tr に多い EBC の両方に使用できるようにしていますので、使用する Tr に合わせてどちらか一方に配置してください。
3. R7,R8 は出力管のグリッド抵抗です。元のアンプに使用している抵抗を使う場合は、ここの抵抗はショートしてください。
4. R\$,R5 と赤色 LED は、真空管の内部放電が起こったとき（水平偏向管や REG 管に多い）入力部の Tr が破壊することへの保護です。通常動作時は機能しません。
5. BIAS 用負電圧 (H2 8 BIAS) には、動作時に必要な BIAS 電圧より、10V 以上深い電圧を印加しておいてください。
6. C2,C3 は印加する BIAS 用負電圧に耐えられる耐圧の Capa を使用してください。
7. プッシュアップのステレオアンプの場合、本基板は 2 枚必要になります。この場合、両基板の H2 端子 (Vcc, REF, GND, BIAS) には同一の信号を印加してください。
8. シングルアンプの場合は、本基板は 1 枚のみ使用できます。

